

爬虫類を捕獲したイソヒヨドリ (ツグミ科)

Shin Kubota : Blue rockthrush *Monticola solitarius* preys on lizards

久保田 信

わが国では北海道から沖縄県まで広く分布するイソヒヨドリ (ツグミ科) は、和歌山県西牟婁郡白浜町や田辺市でも、海岸やそこから少し陸に入った場所などで、年中、普通に見られる留鳥である。田辺市新庄公園で、イソヒヨドリが木の枝にいる虫を、一気に直線的に飛翔して嘴で捕獲したり、フライキャッチングをするのを目撃したことがある。白浜町の海岸に面した京都大学瀬戸臨海実験所構内でも、イソヒヨドリが、大きなショウリヨウバツやそれよりもさらに大きな爬虫類を捕らえた場面を二度目撃したので報告する。

1. 1998年6月20日午前10時15分、一羽の雌がニホンカナヘビ (カナヘビ科) を1個体くわえ、実験所正面入り口のアスファルト道路に何度もたたきつけているところに遭遇した。数分後にそれをくわえたまま飛び去り、数十m先の人家の前に着地した。そこでも、ニホンカナヘビの頭部付近をくわえたイソヒヨドリは、獲物をアスファルト道路に再び打ちつけ始め、続いてニホンカナヘビの尾部付近をくわえ直して打ちつけた。この時、ニホンカナヘビの尾が切れた。その後、本体をくわえて遠くへ飛び去った。

2. 2004年9月11日午後3時頃、実験所北浜の船着場の木の杭に止まった一羽の雄が、約30mほど離れた石組みの堤防の最上部に出現した体長10cmほどのニホントカゲ (トカゲ科) の成体を、直線的に一気に飛んで嘴で捕えようとした。トカゲはつかまりかけたもののうまく逃れ、石の表面をすばやく這って数十cm下方へ

逃げた。しかし、後追いされてすぐに捕われた。イソヒヨドリはトカゲをくわえて飛び去ろうとしたが、その直後に高さ3mの空中からトカゲを砂浜上に落としてしまった。トカゲは、すばやく移動し、落下地点のすぐ傍にあった砂に埋もれた小岩に寄り添うようにじっと身を潜めた。しかし、数分以内に、同じイソヒヨドリがその場所に飛んできて、尾が切れたそのトカゲをすぐに見つけ、くわえて飛び去った。

イソヒヨドリのわが国での広い分布区域と、今回、イソヒヨドリによって捕えられた2種の爬虫類のわが国での分布区域は重なっている。イソヒヨドリの食性は多様で、トカゲの他、節足動物のフナムシや飛翔する昆虫をフライキャッチングしたり、オオムカデ類も捕えるし、秋や冬にはヒサカキやトベラなどの植物の種子も食べる (林, 1997 ; 田辺, 2001)。さまざまな大きさの昆虫をついばんだり、爬虫類でさえ捕獲することから、イソヒヨドリは雑食であるといえよう。

引用文献

- 林 哲. 1997 : イソヒヨドリ. *in* 日本動物大百科 4 鳥類Ⅱ. pp.99 - 100. 平凡社, 東京.
田辺 力. 2001 : ムカデの捕食者. *in* 多足類読本. pp.28-30. 東海大学出版会, 東京.

京都大学フィールド科学教育研究
センター 瀬戸臨海実験所
(〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)